

新企画 ES 座談会

春の陽差しが心地よく感じられる時季となりました。

新年度の始まりに、日頃の活動で感じることや時事ネタ等を何でも気兼ねなく話す時間を持ちました。

今回は3名のメンバーと広報担当2名の計5名で、フランクにおしゃべりしました。

ということで
えんばわめんと堺の座談会（井戸端会議？）次ページからスタート！



も く じ

- | | |
|--------------------------|----------|
| ・特集 ESメンバー座談会 | p. 2～ 3 |
| ・HR & SAYの会 | p. 4～ 6 |
| ・研修 & 講座 報告 | p. 7～11 |
| ・オレンジりぼんワークショップ & 委託事業報告 | p. 12～14 |
| ・CAP 活動報告 & 助成金インフォメーション | p. 15 |
| ・事務局からのインフォメーション | 裏表紙 |



特集 ES座談会（井戸端会議？）

進行： 最近よく聞く体罰やいじめについての話をしたいと思います。

H： この間、ある大学の体育会系の部で、リーグ優勝までした監督が降ろされたと報道があった。指導方法に疑問をもっていた部員が嘆願書を出したらしい。

『私たち、監督のやり方についていけません、監督を代えてください。』って。

A： そうゆうのを選手が出すっていうのが、変わったところやな～。

H： 優勝までしている監督に対してなかなか声出しにくい。それをあえて皆が声を上げることができたことは大きいと思う。

（中略：最近の高校部活動での先生からの体罰の問題も大きくとりあげられた話になりました。）

P： 体罰をされている子はもちろん、体罰を見ている子たちも辛いってなると、自分がやめちゃう。でも、本当にその子がやめたかったか？っていうとそうではない。

H： 技術面の指導を厳しくされるということと、人間の本質的なことを責められるのは分けて考えないとあかんよね。

A： そうゆう風にしか指導できへん人は、人としてどうかと思う。いくら、才能をのばすことが出来る人でも、そうゆう人間的な所をすごく否定する人いるもんね。

その他： はぁ～（ためいき）

P： 誰が止めるんやろう？その世界しか知らなかったら、指導ってこゆうものやって生徒も思うやろ。「それ、おかしいねんで」って、先生に指導してくれるのって管理職の役割になるのかなぁ。

A： 学校って、部活も指導者が1人の場合がある。学校の授業も先生1人。

T： ワークに行った時私ら複数でいろいろな角度から見てるから、子どもらのいつもと違う面が知れたとか言ってもらえたり、わかることってあるよね。だから、先生も複数にしてほしいな。先生同士も、「ここはこの先生のテリトリーやから口出ししたらあかん」じゃなくって、学年団の先生でいろいろな角度から見てスクラム組んでほしいよね。チームで取り組む方が先生もやりやすいんと違うかな？

（中略：子どもたちにおきる問題をおとながしっかりと考えているか疑問を感じるという話から・・・）

T： S高校の件みたいにすごいおっきなことになったら、大々的にニュースに取り上げられるけど、その手前ですごい我慢してたり頑張ったり・・・そうゆう子らって山ほどいると思うんやけど、あそこまでいかへんかったら、誰も動かへんってことが問題・・・

その他： そうそう（沈鬱）

H： 子どもが訴えてることを受け止めずおとながスルーするということは、おとなへの不信感植え付けるよね。

A： そうやって訴えた時には、「訴えたら動かすことができるんやな」っていうところを見せたいほしいな・・・いじめにしても、体罰にしても。





- P： おとなやんなあ、おとなの姿勢を考えていかないと、こうゆう問題って減っていったり、改善されとかっていうのはないんかなって思う。
- I： 体罰で私が思うのは、部活で先生が自分の時間をそこに提供して奉仕みたいにやってるから、言えない構造ってある。
- T： S高校の顧問も、インターハイチームのコーチになった時は暴力振るうこともなく1コーチとして指導してたのに、S高校に帰っての体罰がひどくなったらしい。インターハイでのストレスもあったんかもしれへんけど。
- H： 境界線やね。ここまでならいけるみたい。子どもを自分の所有物のように扱うことは危険！親の関わりも同じやね。
- P： 大きな集団の中では、いじめ・体罰であったり、力関係はあるから、それをどううまく対応するかは、大人が知恵使いながらロールモデルで見せていくべき。
- （中略：体罰の話から、学校内外での人間関係・親子関係の話と続き、子育て支援として、乳幼児とその親への支援と同様に、思春期の子どもたちとその親にも支援が必要という話になりました。）
- A： たとえば中学生が公園で遊んでたら、夕方うるさいとか怖いとかの苦情がある。遊ぶ所もないのに、そんな風に邪険な扱いされるから中学生の居場所がない・・・この年齢が一番苦しいよね。
- I： 子ども会もないし、クラブか帰宅部か塾ぐらいで、場所がすごく限られてる。じゃあ中学生はどこにいてたらいいいん？子どもの居場所はほんまにないよね。
- H, P： そうそう
- T： 小学校6年と中1ってたいして変わらへんの扱い違うよね。
- I： 地域の子どもを見る目が急に変わる。でも子ども自身も小6から中1は意識的にも変化はある。
- A： だからその辺をなんかしていかないと、中学生の子たちは自分らが否定的に見られているイメージあるよね。それでしんどいことになってるしね。
- I： もっと肯定的に見守っていききたいよね～
- T： でも、中学生はそんな状況の中でもよくやってると思うで。体罰やいじめとか社会的問題になってる時って、いつの時代でも「今の中学生は！」という目で見られがちやん・・・。私らもそんな時あったもん。今の中学生たちはよくやってると思うわ！！
- * ということで、次回に続く

日常は活動で忙しく過ごしているメンバーが、どういうことを思っているのか、お互いに共有することができ、1時間がアツという間でした。まだまだ話足りなかったと思います。また、機会を作って part2 を催したいと思います。参加して下さったメンバーの方々、ありがとうございました。（広報）



SAYの会



2012 年度も大阪府内の支援学校・小学校・中学校・高等学校から、多くの依頼をいただき、思春期の子どもたちに性教育プログラムを届けました。思春期の子どもたちは性にとっても関心を持っています。子どもたちからはワークショップ後、『今日の話聞いて、あらためて「性」に関する見方を考

えられた。周りに言われたからではなく、自分の意志で行動すべきだと思った。』『私は知らない事だらけだったので、とてもうれしかったです。実践する時が来たら、性感染症にかからないように気をつけます。』『あらためて自分の身体は大切だと思った。性は恥ずかしくないってことも学びました。下品やからこういう話したらアカンとか決めつけるのは良くないと思った。』といった感想をもらいました。関係性のない外部のおとなが一人ひとりと真剣に向き合うことで、性に関する正しい知識と情報、気持ちとからだの大切さを伝えるとともに、子どもたちの声を聴き、気持ちに寄り添うことができたと感じています。また、私たちも子どもたちからたくさんの力をもらいました。

「日本エイズストップ基金助成」事業

助成金事業では、公益財団法人エイズ予防財団より助成をうけ、大阪府内の支援学校・中学校・高等学校合計 6 校 113 名に「HIV/エイズ予防啓発プログラム」を届けました。

この助成金事業は 4 年目の活動になります。

プログラムを届けて 生徒の声

いろんな性の人が
いるんやな～

セックスは大人になって
するものと思った。

間違った情報を流さ
ない！

エイズの潜伏期間が
10 年近くある！！

普通の生活をしていてエイズが
うつることはない

教職員からの感想

＊個人的に出た意見をスタッフの方々がうまく取り込んでくださっていた。色々な生徒の意見が聞けた。

＊教科書に載っていることだけでなく、「同性間の恋愛」や「お互いの気持ち」について考える機会になったのが良かった。

＊ロールプレイで身近な題材を取り上げてくださったので、生徒達も自分に引きつけて考えることが出来たのではないかと思います。





実施して見えてきたもの

子どもたちはおとなたちから「～してはだめ！」と教わるけれど「なぜだめなのか?」「どうしたら何がおきるのか?」といった根本的なことを伝えられていないことが多いようです。SAY（性・生）の会の授業を受けることで、性教育が自分自身にとって大切な事だととらえ真剣に取り組もうとする姿や、自分のからだと気持ちの大事なんだと気付いていく姿に感動しました。

堺市市民活動支援基金補助金事業活動

補助金事業では、性の健康教育プログラムを堺市立久世小学校の５年生・６年生に実施しました。「プライベートゾーン（口・胸・性器）、や性器の正しい名称、体を清潔にすること、命の誕生の説明」「大切な自分の体にいやなことをされそうになった時は『いや』と言っていい。その場から逃げていい。」といった内容を伝えました。子どもたちは『自分の体は自分だけの大切なもの』と気づき、自尊感情を育むきっかけ作りになったようです。

私たちは子どもたちが自分自身をみつめなおし、自分自身を大切にすることに気づく機会となることを願って、今後もこの活動を続けていきたいと思っています。

SAY（性・生）の会の実績紹介（2012年度）

*公益財団法人エイズ予防財団 日本エイズストップ基金助成事業

大阪府内	公立中学校	1校	2ワークショップ
	公立高校	3校	3ワークショップ
	支援学校高等部	2校	2ワークショップ

*その他 助成金事業

大阪府内	公立小学校	1校	3ワークショップ
	私立中学校	1校	1ワークショップ
	公立高校	2校	3ワークショップ
	支援学校教職員	1校	1ワークショップ

*助成金以外子ども対象

大阪府内	公立中学校	2校	2ワークショップ
	私立中学校	3校	9ワークショップ
	支援学校中等部	1校	1ワークショップ
	公立高校	7校	11ワークショップ
	私立高校	1校	3ワークショップ
	支援学校高等部	2校	4ワークショップ

*助成金以外おとな対象

大阪府内	公立高校教職員向け	1ワークショップ
大阪府外	広島県西部東保健所	1ワークショップ



その他には、思春期の子どもたちの間で、最近問題になっているデートDVについて「デートDV予防啓発プログラム」も届けています。こちらについては、また別の号でお知らせします。



HRプロジェクト

2012年度もたくさん子どもたちとその力に出会いました。（もちろんたくさんのおとなたちにも）初めて出会う子どもたち。そして、継続して「エンパワメント授業」を受けている子どもたちとは1年ぶりに再会し、成長した変化を感じうれしく思いました。そして、どの子どもたちも一人ひとりに素晴らしい力があることを実感しました。

（活動の詳細はE SホームページHRプロジェクトブログをご覧ください）



今年度は「子どもとおとなのワークショップ交流会」を2校で実施することができました。

パワーポイントを使い、体育館で子どもたちの意見やおとなの意見を聞きあい、普段教室でできないワークショップを行うことができました。協力いただきました教職員・保護者のみなさまありがとうございました。

HRプロジェクト2012年度 活動実績 ★新規★継続

子ども対象

小学校

堺市	*大仙（全学年×2回）*金岡南4・6年
柏原市	*柏原東1・6年*柏原1・3・5・6年*壱下北3年 ★旭ヶ丘1・3年*玉手2・3年*国分4年
豊中市	*西丘（全学年）
箕面市	*北（全学年）★豊川北（2・3・4・5・6年）
富田林市	*喜志西3年
中学校	★泉南市立西信達1年
高等学校	★大阪府立北摂つばさ1年×2回

親子対象

堺市	★金岡南小4・5・6年
柏原市	★国分東小3・4・5年合同

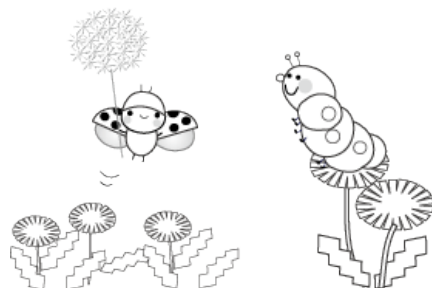
おとな対象

行政	大阪狭山男女共同参画推進センター「すてき女子（自分）講座」
医療	*[株]日本医療事務センター（10月より[株]ソラストに社名変更）ヘルパー2級養成講座人権研修5会場29回
教育	*豊中市立西丘小PTA*堺市立金岡南小教員研修
その他	*おたまじゅくし（子育て支援）*太陽生命 *大阪府立大型児童館ボランティアクルー養成講座

外国人の人権を考える ～在日コリアの女性の立場から～

講師：李美葉氏（^{いみよ}多民族共生人権教育センター）

古来より朝鮮半島と日本との関係性は深い。今を生きる私たちは、未来の人々に近くて遠い国というバトンをわたすのか、近くの友好国という財産を残すのか。李美葉氏の話聞いて自分を問うた。韓流は文化に浸透し、K-POPもメディアを賑わせている。私自身も韓国には何度も旅行をし、韓国ドラマのファンでもある。かの地を訪れる度に、人々のエネルギーと活力に圧倒される。そして親切でホスピタリティーあふれる人々に私自身のルーツも大陸にあったのだらうと、想像がふくらむのだ。



日本に在住している外国人登録者数217, 8万人（2011年末）。いちばん多いのが「中国人」67, 4万人。「韓国・朝鮮」54, 5万人。そしてブラジル、フィリピン、ペルー、アメリカ・・・もはや日本社会は多民族社会なのである。

李氏の話聞き痛感したことは、多民族・多文化共生社会をめざし共に生きていく為の努力をしていくことだろう。

その為には、過去をしっかりと踏まえて自分からパートナーシップを築くべく行動していくことが、共生の一步となるのではないだろうか。日々の生活の中で、ほんの少し共に生きていく為の理解をすれば、違いは豊かさへと広がっていくのではないだろうか。

21世紀となり10年余りの歳月が流れた。一人ひとりの意識や行動がもたらす変化は大きい。持続可能な社会へ向けて社会を創世していくことが、今を生きる私たちの役割だろう。

長岡 幸子

参加者の声

「外国人の人権問題は、日本社会の問題であり、ジェンダーの問題であり、子どもの人権の問題でもあると改めて実感しました」。

「外国人の転校生が入ってきた時に、ラッキーと思える社会になって欲しい。」

「李さんが自分の内なる部分にも改革していかないといけないところがいっぱいあると言っていた事が印象的でした。」

「在日コリアン内での差別があることも知り、興味深く話を聞くことができました。儒教の影響があることが昔の話ではない事も驚きました。」

「政治システムとして、外国人が（2世以下も）排除されているも紹介して欲しかった。」



この悩み、自分だけじゃないんだ！

～「茹で蛙？」にならないために～ こんな考え方があったんだ！(^ ^)！

2月23日（土）に富田久子さんを迎えて、講演会を開催しました。

女性の参加が多く、小学生の子どものいる保護者から孫がいる方まで幅広い年齢の方が参加。子育ては育児書どおりにはいかないという話から『セックス』と『ジェンダー』（社会的文化的に作られた性差）の話を聞きました。特に女性は家事育児を頑張りすぎ、つい子どもに手をあげてしまったり、自分が病気になるってしまったりすることがあります。家事育児は母親だけがすることではなく、家族・祖父母・近所・地域・学校・その他色々な社会資源を使って、みんなで育てていくことであり、そのことが子どものためにもなっていくという話でした。富田さん自身の子育て孫育てでのことや、教師、校長先生だった時の事例などを交えての話に参加者からは、笑いや驚きの声が飛び交う和やかな雰囲気でした。

参加者の声

「子育てのことで答えが見つからずにいたけど、お話を聞いて見つかったようにおもいます。」

「子どもも『十人十色』子育ても『山あり谷あり』を聞いたときにもっと早くに言って貰いたかったと思いました。子育ての時にテンパってたなと思ったからです。」

「まだまだ子育て中です。子どもに寄り添って話を聞いていきたいと思いました。」

「楽しく話を聞きました。これから楽しい家庭をつくっていこうと思います。」

「夫婦・子どもの会話からまさにその通り！と思うことがたくさんありました。今日聞いた話を多くの人に聞かせたいです。」



訪問授業 「障がいって何？」

NPO法人サンフェイス理事長の久田亮平さんを講師に迎えて、ビッグ・アイで研修会を開きました。久田さんは、地域の小学校・中学校での訪問授業や放課後等デイサービス等の活動を通して、発達障がい児（者）理解についての様々な啓発活動を行われています。

発達障がいの特徴や、支援する際に必要な心がけ、方法について具体的にわかりやすく話してもらいました。ユーモアを交えた楽しい雰囲気で2時間があっという間でした。

参加者の感想

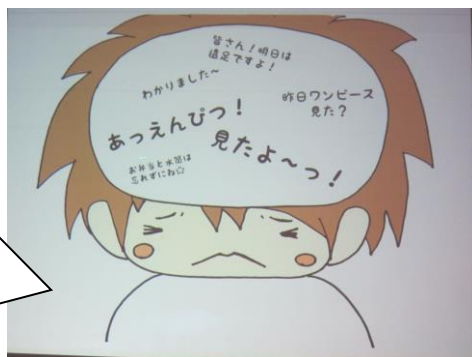


具体的に子どもたちの様子も織り込んで話してもらえたので、わかりやすかった。さらっと押し付けない感じが、学校現場にあうな～と感じました。

障害の特徴についてわかりやすかった。支援について具体的でもっとゆっくり聴きたかった。わかりやすかったです。ありがとうございました。

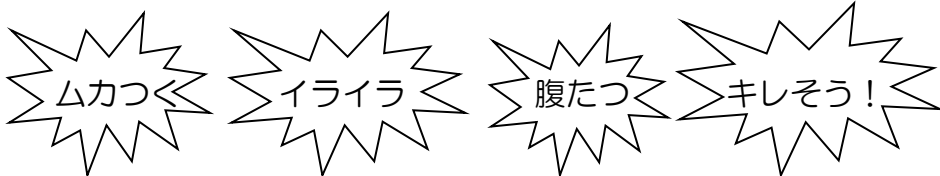


とてもわかりやすかったです。パワポにでてる絵がかわいくて、引き込まれました。支援者のいいようではなく子どもが安心していられる環境作りをこれからもしたいです。



“アンガーマネジメント”を受けて

講師：梅花女子大学教授伊丹昌一さん



「みんなはこんな気持ちになったことある？」子どもたちに訊ねると「あるある！」

とほとんどの子どもたちが答えます。なかには、「ぜんぜんない」という子どももいます。本当にないのかな？ないことにしているのかな？なんて考えてしまいます。

みなさんは、どうですか？

腹が立つことは誰にでもあります。腹が立つことは悪いことではなく、自然なことです。でも、腹が立つことは悪いこと・いけないことと思っている子どももいます。

私たちは活動を通して「腹が立つこと、誰にでもあるよ。うれしい・たのしいと同じように腹が立つ気持ちも大事！腹が立つことが悪いわけではなく、腹が立ったときにどうするかが大切！」ということを伝え、腹が立ったときに、なかったことにしたり我慢したりせず、また爆発して自分を傷つけたり、相手を傷つけたりしない方法を子どもと一緒に考えています。怒りの扱いは、行動を間違えると、人への暴力や自分への暴力になってしまいますよね。

そこで、今回は「アンガーマネジメント」に焦点をあてて、おとなも子どももどんなふうに「自分の怒りと上手に付き合っていきたいか」を伊丹さんに教えていただきました。2時間の講座中、ホントに怒りについての研修なん？と思うくらい、笑いの絶えない時間でした。楽しく学べるってお得と思うのは私だけ・・・？

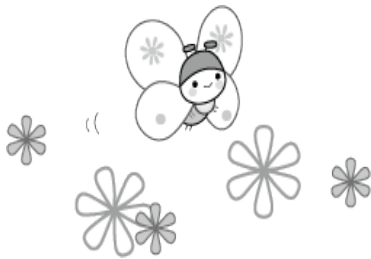
以下、伊丹さんの講座の内容を一部紹介します。

- ★**イライラした自分を責めるのは避ける** イライラして人を（子どもを）殴ってしまった経験があったとしても、「過去のことは気にしない。今からかえれば良い。」と伊丹さんは前向きなメッセージを参加者に伝えてくれました。
- ★**イライラの明確化** ワークシートに自分が今まで腹が立ったこと、イライラしたことを書く。書くことで漠然としたイライラが明確化し、自分の怒りのパターンがわかる。私もイライラの原因が誰に対してか？何に対してか？どういう状況の時か？などが、はっきりしました。
- ★**イライラの点数化** 自分のイライラに点数をつけることで、何に対して強く起きているのかを知る。点数をつけるとイライラ度もはっきりしました。点数つけはなぜか楽しかったです。
- ★**イライラの優先順位** すべてのイライラに対応するのではなく、優先順位の高いものから対処し、低いものは無視する。すべてに立ち向かうのは無駄なエネルギー？？

★「まあ、いいっか！」の法則 完全主義からの脱却。「失敗したらアカン」、「間違うのが怖い」と思っている子どもたちにぜひ伝えたい言葉です。

★**深呼吸法** 私ワークショップでよく、子どもたちに深呼吸を伝えます。鼻から吸って鼻から吐く。吸った息よりも吐く息を長くすることで、副交感神経を働かせ、気持ちを安定させることを自分でも実践しています。

★他にも、イライラした時に自分を落ち着かせる魔法の言葉や、マイナス思考をプラス思考に変えるリフレーミングなど、伊丹さんの研修はすべてがプラスのメッセージでした。今回、印象的だったのは、伊丹さんが、何度も「過去を気にしない」というメッセージを伝えられたことです。自分を嫌いにならない。過去にやっていたことを憎まない。いま、こうやって研修に来ている自分を認める。今を大切にということ・・・どんな時でも、自分を大切に思うこと大切ですね。



今回の研修で、私も自分のイライラに改めて向き合う事ができました。そして、たくさんのリラックス法をワークシートに書き込みました。イライラした時に、自分も相手も傷つけない方法をおとなの私たちが実践する。おとなの行動を子どもは学びます。私たちおとなが上手に怒りにつきあう姿を見せ、ロールモデルになることが大切ですね！

By ありちゃん

参加者の感想

実践で出来ることを聞けて、とても良かったです。楽しく勉強できました。

とてもとても勇気づけられました！！

専門の方の話を聞いても「なんだか違うなー」と感じるなか、とっても楽しくまたとっても心にすっしり素直に入ってきました。深一く分かりやすいお話、ありがとうございました。



怒りは絶対だめなことではなく、それをどうコントロールしていくか、色々な方法を聞き、自分や周りに対しても使っていきたいと思いました。

一般社団法人「けあ・すぴんぐ」放課後等デイサービス リーふ

3月28日（木）毎年E Sで参加しているローズカーニバルのバザー収益金により、障がいのある子どもたちにワークショップを届けてきました。

参加した子どもたちは最初緊張した様子でしたが、時間が経つにつれ、表情カードを見ながら、気もちの言葉を教えてくれたり、自分からホワイトボードに気もちの言葉を書いてくれたりしました。

皆がのってきた頃短い劇を見て、「お互いが気持ちよい関わりをするには、何が出来る？」ということを考えました。自分ならこんな事が出来ると言って、劇にたくさんの子どもたちが出てくれました。自分の出来ることをみんなで一緒に考え、体験しました。

ワークショップ後の感想に「いい感じでつながれた。」と書いてくれた子がいました。

この言葉につける楽しいワークショップでした。



今年も5月19日（日）に浜寺公園で開催される
浜寺ローズカーニバルのフリーマーケットに
参加します。お近くの方、興味のある方、是非
のぞきにきてください(^^)
また、フリーマーケットへの抛出品も募っています。
寄付していただける方は、事務局か、お知り合いの
メンバーまで連絡ください。



仲良し三人娘＝安立有里、川端頼子、古川愛

書と織り作品展

～プール・ヴーに『ありがとう・またね』の気持ちを込めて～

「こころクラブ」（オレンジりぼんの活動を通して長年関わっている団体です）の仲良し三人娘が、3月に閉店の決まった、三原台泉ヶ丘プール管理棟 2 階のコミュニティカフェ「プール・ヴー」で作品展を開きました。素敵な書と織りの作品が展示されていました。



大阪市 平成 24 年度 地域における女性リーダー養成事業

大阪市民政局男女共同参画課より委託を受け、1月28日から3月6日にかけて、大阪市内の7区（阿倍野区、浪速区、東成区、西成区、住之江区、住吉区、東住吉区）で連続講座を開催しました。

全4回の連続講座中は雨の日や雪の日もありましたが、参加者の方々はほぼ毎回出席され、好評のうちに講座を終了することができました。



堺市2012年度 女と男のフォーラム（市民啓発講座）

子どもの未来のためにDVを考える

～子どもたちをDVの加害者にも、被害者にもさせないために！～

堺市男女共同参画推進課からの委託で、3月20日の祝日に堺市教育文化センター（ソフィア・堺）でフォーラムを開催しました。

前半はSAYの会のスタッフが中心となり、直接子どもたちに実施しているワークショップの様子から、10代の中高生の関係性における課題と現状を伝えた後、北野真由美さん（ES代表理事）の進行により会場全体でその課題と現状について考えました。

後半は、幼児期からのジェンダーワークを進めているNPO法人SEANの遠矢家矢子さんから話を聞きました。

広報の期間が短く、どれくらいの人数の方が参加されるのか心配でしたが、予想以上の参加者があり、好評のうちに終了することが出来てホッとしています。

参加者の感想

*今日は仕事半分と思ってきましたが、間違っていました。人としての勉強ができました。

*DVが起きる社会的背景など勉強になりました。自分が持っているフィルターの再確認をし、ちょっとヘコみつつ新しい気づきに前向きになりました。

*小学校の教諭をめざしているのですが、今回お話を聞かせて頂いて、子どもたちとDVの関係性・性の重要性について学ばせてもらいました。

*「依存」、「力関係」は全否定されるべきものでなく、そこから分化して「自立」、「自律」及び助け合えるより良い環境が生まれるのだ、というお話は目からウロコでした。

*おもちゃのカatalogや物語・映画・ドラマ・アニメなど、大人が商業ベースでたれ流しているジェンダーや恋愛に対する価値観が、子どもたちのデートDVの温床になっているという話がとても印象に残りました。

*男女だけでなく、同性でもおこるDVのしくみが分かりすぎりました。カップルだけでなく人間関係のキヨリが大事ななと思いました。

*大学生やこれから教職をめざす人、中高の先生方に是非受けて知ってほしいです。





CAP 活動報告

H24 年 9 月
～H25 年 3 月

	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			おとな (教職員)	人数
	校 数	ｸﾗｽ 数	人数	校 数	ｸﾗｽ 数	人数	校 数	ｸﾗｽ 数	人数		
9 月	6	19	683	0	0	0	0	0	0	6(6)	25(25)
10 月	10	23	717	1	2	47	3	14	496	16(15)	117(77)
11 月	9	23	652	1	4	124	2	9	315	13(13)	89(89)
12 月	3	9	295	1	1	35	1	2	54	5(5)	20(20)
1 月	6	17	493	1	1	30	0	0	0	10(8)	143(33)
2 月	1	2	59	1	1	34	3	11	348	5(5)	28(28)
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(0)	60(0)
合計	35	93	2899	5	9	270	9	36	1213	56(52)	482(272)

★CAP スペシャルニーズプログラム子どもワークショップ 支援学校 2 校（中学部 1 校・高等部 1 校）4 ワークショップ 56 名



* 助成金報告 * ありがとうございました !!!

- 大阪府福祉基金地域福祉振興助成金
 - ・・・障がい児・障がい児のきょうだい向けワークショップ&講演会
- 公益財団法人 大阪コミュニティ財団
 - ・・・子どもへの暴力防止（CAP）プログラムおとなワークショップ、子どもワークショップ

2012年度の助成金事業も無事終了しました。
助成いただいた各団体に心より感謝申し上げます。



ES インフォメーション

第 11 回総会 & イベントご案内

日時： 2013年5月18日（土）

総会 午後から（時間は未定）

*総会後、10周年記念冊子をみなさんに見てもらう予定です。

場所： 社会福祉会館4階第3会議室

詳しくはHPをご覧ください。 <http://www.npo-es.org/>

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000 円

（初年度のみ入会金 3,000 円）

賛助会員 1,000 円（入会金なし）

◎ 更新日は年2回（1月31日・8月31日）です。

◎ 会員有効期間は1年です。

郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

正会員 31名

賛助会員 81名（99口）

2013年 3月

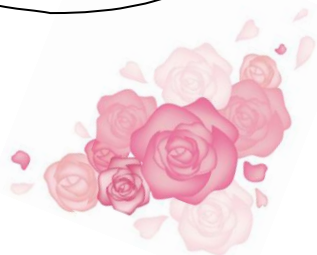
ESの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしく願いいたします。

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

特定非営利活動法人えんばわめんと堺／ES

TEL：072-230-5588 FAX:072-230-5589

E-mail：empowerment@lily.ocn.ne.jp



編集後記

遅くなってしまいましたが、ようやくESの樹21号をお届けすることができました。

メンバーの生の声をお届けしようと企画した座談会でしたが、いかがでしたか？

大阪弁は文字にすると読みづらかったかもしれません（笑）

感想をお聞かせいただけると嬉しいです！

昨年度ESは10周年を迎え、11年目に入りました。これからも、子どもの権利を大切に活動をしていきます。宜しくお願いします。



（たっしー）